

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市及び郊外のファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安維持部隊（UPP）を設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2014年10月現在，リオ市内ファベラ計38カ所にUPPを設置）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

2014 FIFA ワールドカップ開催に伴い，5月から7月までの間、開催に反対する抗議デモが散発的に行われ，特に開会式，閉会式当日を中心にけが人及び逮捕者が出た。ただし，開会期間中，ワールドカップに関連した殺人等の凶悪事件の発生は皆無であり，当地の治安関係の各当局は，そろって，同大会の警備について，成功との認識を示している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第2四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年に入ってからはその傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にあり，2013年にはいずれも過去最多を記録している。

一般治安悪化の理由については，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署の人員不足が深刻化したことや，リオ20，コンフェデ杯，ローマ法王来訪，そして今回のワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され，これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなどが指摘されている。

邦人が多数居住する南部地区でも，ほぼ全域にわたって治安が悪化しており，特にひったくりや路上強盗等の街頭犯罪の増加が顕著である。街頭犯罪の増加について，当地治安当局では，UPPの取締りにより麻薬売買に従事できなくなった犯罪グループがより安易な犯罪へと流れている旨分析している。

リオ州公安研究所による，本年上半期の犯罪統計は以下のとおり。（括弧内は 前年同期比の増減数）

ア リオ州・市犯罪発生状況（４～６月計・前年比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	1 2 6 2 (+ 5 3)	3 0 8 (- 3)
強姦	1 3 2 9 (- 1 8 1)	3 9 8 (- 1 3 0)
商業施設強盗	2 1 2 1 (+ 2 9 5)	1 0 1 1 (+ 2 6 7)
住居侵入強盗	3 6 0 (- 1 2)	1 2 9 (- 2 4)
車両強盗	8 8 0 3 (+ 2 2 3 7)	3 4 9 5 (+ 6 4 8)
路上強盗	2 0 7 2 2 (+ 5 8 7 4)	9 9 6 2 (+ 2 8 3 5)
交通機関内強盗	1 8 0 1 (+ 3 4 2)	1 0 1 1 (+ 2 4 7)
携帯電話強盗	1 7 6 6 (+ 4 0 2)	1 1 0 9 (+ 3 1 5)
強盗総数	4 0 5 2 8 (+ 9 6 7 9)	1 9 6 1 8 (+ 4 6 9 8)
窃盗総数	4 3 6 7 4 (+ 1)	2 4 9 0 0 (+ 6 3 8)

イ ZONA SUL 犯罪発生状況（４～６月計・前年比増減数）

フラメンゴ・ポタフォゴ地区

殺人	2 (- 2)
商業施設強盗	7 0 (+ 2 6)
住居侵入強盗	9 (+ 3)
車両強盗	4 1 (- 1 8)
路上強盗	2 7 2 (- 1 0 3)
交通機関内強盗	2 4 (- 8)
携帯電話強盗	5 5 (± 0)
強盗総数	5 6 3 (- 1 4 3)
窃盗総数	1 4 6 1 (+ 6)

コパカバーナ地区

殺人	3 (+ 2)
商業施設強盗	2 9 (+ 8)
住居侵入強盗	1 0 (+ 8)
車両強盗	6 (+ 6)
路上強盗	2 2 3 (+ 9 1)
交通機関内強盗	1 7 (- 8)
携帯電話強盗	2 0 (- 1 1)
強盗総数	4 2 7 (+ 8 1)
窃盗総数	2 4 1 7 (+ 1 1 1 8)

イパネマ・レブロン地区

殺人	7 (+ 5)
商業施設強盗	2 0 (+ 1)
住居侵入強盗	1 3 (+ 6)

車両強盗	25 (+15)
路上強盗	240 (+120)
交通機関内強盗	16 (+2)
携帯電話強盗	40 (+24)
強盗総数	501 (+184)
窃盗総数	1178 (-52)

(2) 邦人被害事案（ワールドカップ開催期間中・まとめ）

- ア 6月15（日）午後6時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が、カバンの中に入っていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- イ 6月15日（日）午後6時30分頃、マラカナンスタジアム入り口付近において、アルゼンチン・ボスニア戦を訪れた邦人が、何者かにデジタルカメラ一台をすり盗られた。
- ウ 6月15日（日）午後7時頃、地下鉄マラカナン駅のスロープにおいて、邦人が立ち止まってスタジアムの写真を撮っていたところ、背負っていたカバンを開けられ、中に入っていた財布、クレジットカード等をすり盗られた。
- エ 6月15日（日）午後10時頃、マラカナンスタジアム付近において、アルゼンチン・ボスニア戦を観戦し終えた邦人が、ベルトに繋いであったスマートフォン一台をすり盗られた。
- オ 6月17日（火）午後7時頃、コパカバーナ地区の地下鉄シケイラ・カンポス駅構内において、邦人が、ズボンポケットに入れていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- カ 6月17日（火）午後7時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が、ウェストポーチ内に入っていた、スマートフォン、腕時計をすり盗られた。
- キ 6月17日（火）午後8時頃、フラメンゴ地区のサッカー練習場において、邦人2名がサッカーに興じている間に、カメラ、財布、現金、腕時計などが入ったカバンを盗まれた。
- ク 6月18日（水）午後5時頃、マラカナンスタジアム付近において、スペイン・チリ戦を訪れた邦人が、上着のポケットに入れていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- ケ 6月22日（日）午後5時頃、邦人が、コスメ・ベリヨ地区から南地区方面行きのバスに乗車していたところ、気がつかない間にバックのチャックを開けられ、身分証等が入った財布をすり盗られた。
- コ 6月22日（日）午後8時頃、セントロ地区カリオカ通りにおいて、邦

人が、少年2名にナイフを使って脅され、所持していたカバンの中から、現金、スマートフォン等を強取された。

- サ 6月23日(月)、午後7時頃、ラパ地区メンデサ通りのレストランにおいて、邦人が妻と食事している間に、ノートパソコンとiPadの入ったカバンを盗まれた。
- シ 6月21日(土)午後11時分頃、コパカバーナ地区アトランティカ通りの飲食店で、邦人が、航空券、W杯観戦チケット、クレジットカード、サングラス等が入ったカバンを盗まれた。
- ス 6月23日(月)午前1時頃、コパカバーナ地区のアトランティカ通りの飲食店で、邦人がトイレで席を立っている間に、座席に置いてあった、カメラ、レンズ等が在中のカバンを盗まれた。
- セ 6月27日(金)午後10時頃、邦人がセントロ地区のホテルに外出先から戻ったところ、カバンの中にあっただけのカメラと財布がいつの間にかすり盗られていることに気づいた。
- ソ 6月28日(土)午後7時30分頃、マラカナンスタジアムで観戦を終えた邦人が、セントロ方面に向かう地下鉄の中で、カバンの中に入っていたスマートフォン一台をすり盗られた。
- タ 6月28日(土)、コパカバーナ地区のポンペウ・ロウレイ口通りのホテル室内において、邦人が外出中に、ロッカー内に保管してあったタブレット等を盗まれた。
- チ 6月30日(月)午後9時30分頃、シウダージ・ノバ地区のアフォンソ・カバルカンチ通りを邦人が友人と一緒に歩いていたところ、少年2名が近づいてきて、いきなりポケットの中に入っていたスマートフォンを引ったくり、そのまま逃走した。
- ツ 6月30日(月)から7月3日(木)にかけて、邦人がクレジットカードのスキミング被害に遭い、コパカバーナ地区のATMから計3回にわたって現金2,000US\$ (計6,000US\$) を引き落とされた。
- テ 7月3日(木)午後0時30分頃、セントロ地区・リオ・ブランコ通りのパセイオ・プブリコ公園において、邦人が少年グループに囲まれ、一人にシャツの胸ぐらを捕まれている間に、別の少年がポケットからスマートフォン1台を強奪した。少年らはそのまま逃走した。
- ト 7月4日(金)午前11時頃、地下鉄の列車内(シウダージ・ノバ駅付近)において、男2名が警備システムの通報により、窃盗の疑いで逮捕されたところ、同人らはサンパウロ在住の邦人名義の財布を所持していた。(後日、財布は邦人に還付された)

- ナ 7月4日（金）午後4時頃、コパカバーバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が、ズボンのポケットの中からカメラ等をすり盗られた。
- ニ 7月6日（日）午前11時30分頃、セントロ地区サンセバスティアン・カテドラル前で邦人が、少年1名にスマートフォン等が入ったカバンをひったくられた。少年はそのまま走って逃走した。
- ヌ 7月11日（金）午後10時頃、マラカナンスタジアム内において、邦人がノートパソコン、カメラ等が入ったカバンを盗まれたが、犯人は現場から逃走しようとしたところを警備員と軍警察により現行犯逮捕された。
- ネ 7月11日（金）午後11時頃、ラパ地区のメンデサ通りにおいて、邦人が20～25歳位、165cm位、黒髪の男とすれ違った際に、体をぶつけられ、その後しばらくしてから、所持していたはずのスマートフォンがすり盗られていることに気づいた。
- ノ 7月12日（土）午前11時30分頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人がカバンの中から現金、クレジットカード等が入った財布をすり取られた。
- ハ 7月12日（土）午後4時から午後7時頃までの間に、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人がスマートフォン一台をすり盗られた。
- ヒ 7月12日（土）午後5時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人がいつの間にかリュックサックのチャックを開けられ、中に入っていたスマートフォン2台をすり盗られた。
- フ 7月13日（日）午後3時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が服のポケットの中から、スマートフォン一台と財布をすり取られた。
- ヘ 7月13日（日）午後7時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場において、邦人が決勝戦（ドイツ・アルゼンチン戦）を観戦していたところ、ドイツ代表がゴールを決めた際、アルゼンチン側から飲み物のビンが多数投てきされ、そのうち一つが邦人の額に当たり、数針を縫う怪我をした。またその際、多数の人々が同人の周辺に押し寄せ、その拍子に持っていたカバン（現金、旅券等在中）を手放してしまい、その後現場に戻ったが、カバンはなくなっていた。
- ホ 7月13日（日）午後8時頃、コパカバーナ地区のファンフェスタ会場近くにおいて、邦人がバスに乗車していたところ、ジッパーの付いたカバンの中から、スマートフォン一台をすり盗られた。
- マ 7月14日（月）午後4時頃、空港内において、邦人が女性に話しかけられ、相手をしていたところ、スーツケースの上に積み上げていたカバン（カメラ、レンズ等在中）が、いつの間にか別のカバン（衣類在中）とすり替

えられていた。

※ 発生場所別統計（31件中）

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ○ コパカバーナ地区・・・ <u>13件</u> | ○ 地下鉄構内・・・2件 |
| ○ セントロ地区・・・・・・6件 | ○ 空港内・・・・・・1件 |
| ○ マラカナン競技場・・・・6件 | ○ その他・・・・・・3件 |

※ 犯罪手口別統計（31件中）

- | | |
|---------------|----------------|
| ○ すり・・・・・・19件 | ○ 侵入窃盗・・・・・・1件 |
| ○ ひったくり・・・・2件 | ○ スキミング・・・・1件 |
| ○ 置き引き・・・・5件 | ○ 傷害・・・・・・1件 |
| ○ 強盗・・・・・・2件 | |

3 一般事件等

(1) フラメンゴ地区におけるバス襲撃事件の発生

8月27日（水）午後1時30分頃、セントロ地区からレブロン地区に向かう市バス（132番）が、アテホ・ド・フラメンゴ大通りを走行中、フラメンゴ地区のブアルケ・デ・マセド通り（総領事館から数百メートル北方の地点）にさしかかったところ、バス内で乗車していた3人組の男のうち1人が銃を取り出し、約30人の乗客に対して金品を要求した。

その場に居合わせた元軍警察官が発砲し、銃撃戦に発展した。3人組のうち2人が死亡、1人は怪我をして逮捕された。一般市民に被害はなかった。

軍警察によれば、今年に入ってから半年間で、銃器を使用した同様のバスへの襲撃事案は約80件発生している。

(2) 海水浴客を狙った集団強盗事件の発生

9月14日（日）午後、リオ市内南部地区の海岸各地において、同時多発的に強盗事件が発生し、州文民警察では、同日、コパカバーナ、イパネマ・レブロン地区で少なくとも60件の強盗被害を受理した。

特にイパネマ海岸では、同日午後、複数の被疑者グループが砂浜に現れ、海水浴客や砂浜を散歩する一般市民を襲撃し、所持品（現金、携帯電話、サングラス、ネックレス、時計等貴重品）を片端から盗み、そのまま逃走した。被疑者の多くは少年で、軍警察は騒ぎを収束させるために催涙弾を使用するなどして応戦し、海水浴客がごった返す砂浜は一時騒然となった。

軍警察は、コパカバーナ地区において50人、イパネマ・レブロン地区において30人の強盗被疑者の身柄を拘束し、文民警察に引致した。

(3) ワールドカップ開催期間中のデモの発生等（大規模なもののみ抜粋）

ア ワールドカップ決勝戦が行われた7月13日午後、リオ市チジュカ地区サエズ・ペナ広場において、W杯反対デモ隊約300名が組織され、午後3時頃からマラカナンスタジアムへの移動を始めたが、厳戒態勢の機動隊が催涙ガス弾等で応戦し、マラカナンスタジアムへの進行を食い止めた。軍警察は、抗議参加者の中から計6人を逮捕した。また、衝突により、軍警察2人、抗議参加者3人がけがをして病院で治療を受けたほか、プレス関係者11人が負傷したことも確認している。

イ 決勝戦終了後、マラカナンスタジアム内外において、アルゼンチン人サポーターとブラジル人との衝突が発生し、今大会を通じて最大となる200人（女性も含む）が病院で治療を受けた。これにより、多数のアルゼンチン人が逮捕され、簡易裁判により、3ヶ月の観戦禁止処分、罰金等の判決を受けた。

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2014年6月～8月中、リオ州内で短時間誘拐26件（うちリオ市17件）、脅迫19,827件（うちリオ市7,374件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

6. 日本企業及び在留邦人の安全に関わる諸問題等

本年8月、当地の日系団体等が中心となって、フラメンゴ地区において「日本まつり」が開催された。当館からは、同地区を管轄する第二軍警察本部を訪問し、開催期間中の警戒強化を申し入れ、会場周辺における警察官の街頭配置の増加の対応を受けた。

以上